

弘前藩日記目録

(十)

弘前藩政史研究会編

(延宝五年十一月)

十七庚辰日 (天候記事存し)

1. 式日寄合 2. 左京より鷹牛甚右江内へ白銀五枚

3. 4. 同じく西村市太江内へ米二十俵

5. 細工人の小役救免

十八辛卯日 (記事なし)

十九壬辰日

1. 長崎寺病死

廿癸巳日

1. 白米御感奉行を命ず

2. 小姓目付外崎茂左江内未暮まで休息を命ず

3. 萬壽寺住職の病死後の取扱いに命ず

廿一甲午日 (記事なし)

廿二乙未日

1. 式日寄合 2. 白米感奉行の誓詞

廿三丙申

1. 雁脚江戸へ 2. 耳忌法要のため報恩寺へ米十俵

廿四丁酉日

1. 松前兵庫より鷹二十俵、青森へ着岸、南部へ届す

2. 外記登城

廿五戊戌日

1. 2. 4. 久昌院、長崎寺へ参詣

廿六己亥日

1. 江戸より飛脚到着 2. 藩士の跡式許可 3. 役替

4. 藩士の相続人の役替

5. 病氣養生中の藩士に役銀を命ず

6. 袖指許可 7. 書物入の箱の授受

8. 黒土刑部左江の出銀の儀、申立に依、先格の通り、

三度の内一度分引 9. 上方相場申越の寛

廿七庚子日

1. 式日寄合 2. 松前兵庫へ飛脚 3. 跡式許可

4. 源八長屋の材木兼ねて調査候分、差回木不足につき

江戸へ寢の付結果、表裏門にも柱にする旨、依事奉

行へ命ず 5. 任言師林吉兵江の町役救免

廿八辛丑日

1. 恒例の御礼 2. 左内持病故登城なし

廿九壬寅日 (記事なし)

世襲卯日 (記事なし)

延宝五丁巳年十二月小

月番 北村弥右江内

一 甲辰日 (天候なし)

1 恒例の詣御礼

二 乙巳日

1 式日寄合

三 丙午日 (記事なし)

四 丁未日

1 杉山八兵衛病氣

2 本寺の中で登代銀を懸けている者に侍場へ出なくてよい旨

五 戊申日

1 外記登城

六 己酉日

1 献上品として鱈二三の、その他塩引を江戸へ登す

2 我・蒲江前寛政・道鳥侍へ出す

七 庚戌日

1 式日寄合

八 辛酉日

1 江戸へ飛脚

九 壬戌日

1 江戸より飛脚 2 円座院御隠居

十 癸巳日

1 家中の出銀を差控らせるよう江戸より申し来る

2 塩牛・堀右江門役屋敷長・職共残らずつくるよう依事奉

行へ命す 3 茶室への歳暮の支度を命す

4 江戸詣御歩行の者を三人命す

5 松山善左江門・松井四郎兵衛屋敷面方二向迄とり候

事不要のこと 6 跡式相統許可

7 矢判竹松義約少々れど、先祖御奉公よき故跡式許可

8 堀経を江戸にて献上

十一 甲寅日 (記事なし)

十二 乙卯日

1 式日寄合 2 今日道鳥狩

十三 丙辰日

1 外記登城

十四 丁巳日

1 献上品として蓮子九十六を差登す

十五 戊午日

1 恒例の諸士御礼

十六 己未日

1 御戴目付を任命 2 今日新兵衛登順番なれど、大

切な役目なので、来年も引籠き礎ヶ岡御番を命す

十七 庚申日

1 式日寄合 2 竹鼻村半十郎龍宮赦免

十八 辛酉日

1 長勝寺の後住のきまらな中、謝香院が差図

2 位牌への勤行は領知ある手が順番で行うべき旨

十九 壬戌日

1 親子の移送には監督を敷にすること 2 相統許可

廿六日

1. 正兵江吉森へ 2. 江戸へ本参り五人登す

3. 藩士江戸より到着

廿一日

1. 今日まで雪一尺六寸

廿二日

1. 丸山奥左江内病死

2. 石切佐左江内の弟子、上方で稽古 3. 外記登城

廿三日

1. 歩行三人江戸へ 2. 石切佐左江内、本国小田原へ

廿四日 (記事なし)

廿五日

1. 新報に申付候小左江内助之丞、妻子共可申由

廿六日

1. 江戸より飛脚 2. 又昌院へ密掛

3. 伊左江内、戦様へ対顔 4. 江戸留守居北村弥右江

内 5. 江戸へ登る人達の類連れ

9. 御用の雪七十本下す 10. 家中の諸士番代勤めた者

に、書付登せ申すべき旨

且内記より御用の熊肉を差登す

廿七日

1. 式日寄合 2. 当夜、火事に逢つた町の者の前々お

取替銀十八匁目、其節、早速済可申由申渡したが、

延引しているので今日還申すべき由町奉行へ達す

廿八日

1. 恒例の諸御礼 2. 書森御殿役任命

廿九日 (記事なし)

延宝五丁巳年閏十二月小

一癸酉日 (天候なし)

1. 恒例の御礼

二甲戌日

1. 式日寄合 2. 材木積船中批領八戸沖で遭難

三乙亥日

1. 御歩行柳沢弥太郎江内儀、諸人に立つ者なく、御歩

行中間へ預置く

四丙子日

1. 奉電へ台銀二十枚

2. 大蔵殿の家来不届あり小知行組頭へ預置く

3. 比内の馬盗人三人を斬罪 4. 十三村の火付を磔

五丁丑日 (記事なし)

六戌寅日

1. 外記登城

七己卯日

1. 式日寄合 2. 伊左江内様の御金拝借の面々、暮ま

でに上納すべきこと

3. 所々の門番は小門暇垂所に差置く

4. 新地三十町の小知行の者不行跡あり、知行取放ち

5 大直寺次郎市登城

八庚辰日

1. 江戸へ飛脚
2. 江戸より飛脚

九辛巳日

1. 飛脚の便りに上々持機嫌なき旨
2. 文昌院へ御書
3. 本城の土蔵出来
4. 本城穴蔵の作造を命ず
5. 江戸常陸の面々の軍用出銀の出し方について命ず
6. 長崎寺後住の選任について
7. 8. 縁組許可
9. 10. 爆弾にて怪我し死亡した者の陣式を許可
11. 兄の病後本復により知行を返上

以後押次郎太右衛門儀余りに不届者故、大小押次、坊主にいたし、弘前より五里外へ追放

は江戸廻材木船、南部領密告にて隠難、救援す

十壬午日

1. 素庵へ歳暮
2. 奉公匿意の申出

十一癸未日

1. 江戸へ荷物付添に登った大左衛門下着

十二甲申日

1. 式日寄合
2. 文昌院へ歳暮（百録の写）
3. 御泊町小中七郎右衛門儀、火元故に入寺を命じた処
- 町より放逐の報あり、許す

4. 陣中不足を命ず

十三乙酉日

1. 既取軍馬
2. 南部領にて難船の節の救助へ謝礼

十四丙戌日

1. 藩士の不届に対する奉公延引取消

2. 3. 節分の儀式

十五丁亥日

1. 恒例の御礼

十六戊子日（記事なし）

十七己丑日

1. 式日寄合

十八庚寅日（記事なし）

十九辛卯日

1. 足輕の榴硝煙の治療代を支給

2. 江戸へ登す費鷹への謝礼

廿壬辰日

1. 中岡に不届あり追放

廿一癸巳日

1. 寄合所へ出座

廿二甲午日

1. 式日寄合

廿三乙未日

1. 寄合所へ各々出座
2. 江戸へ飛脚

廿四丙申日

1. 寄合所へ出座
2. 当領の絵図（細字の書付）を申付け山村玄与へ米三俵給与

3. 物書役に対し飯米、木綿を給与

廿五丁酉日

1 外記登城
廿六戊戌日

1 寄合所へ出座 2 昨夜江戸より飛脚

3 十二月二十六日左京天人正産の由 4 齊本市左江

内、中小堤に召出される 5 文昌院へ寄柑二箱送

らる 6 石の鑑四五枚分登すべき由

7 小殿廻三陣宛打合せよう中来る 8 袖前願許可

9 油布守太夫の奉公願についての扱い

10 唐牛是右江門の相役願の儀につき処置

11 蔵越法騎寺の奉加につき文昌院より鳥目百足出す旨

廿七日亥日

1 江戸より寄柑荷物到着（四十二日振）

廿八寅子日

1 恒例の御礼

2 歳暮の御祝儀として御禮代差上の宛

3 4 奉庵、玄蕃へ寄柑など 5 歳暮の祝儀の爲、庄

右江門登城 6 玄蕃御礼の爲め登城

廿九辛丑日（記事なし）

証宝六戊午年正月大

月番 盛岡主膳

一 壬寅日 吹雪

1 正月行事 御年男北村弥右江門吉例の如く勤む

2 5 17 同じく正月行事関係（十六）

二 癸卯日 午刻地震

1 2 正月行事（二）

三甲辰日 晴

1 5 4 正月行事 5 謡初について

四乙巳日 晴

1 弥右江門他登城 2 御室兼弥右江門納む

3 奉庵登城

五酉午日 晴（記事なし）

六丁未日 晴

1 寺社方年給御礼

七戌申日 晴（記事なし）

八己酉日 晴

1 外記登城 2 茶良岡権右江門十二月廿九日病死

九庚戌日 晴 亥刻大風（記事なし）

十辛亥日 昨亥刻大風及今日刻 晴

1 江戸より飛脚

十一壬子日 昨夜雪及五寸許 晴

1 5 3 御具足祝関係 4 5 12 御室兼出納祝儀関係

13 十三日八幡吉兆について

14 御城米大坂着、吉村場左江門羅登る

15 御目付同右 16 塚組許可 17 跡式許可

十二癸丑日 晴

1 式日寄合 2 諸役人誓詞

十三甲寅日 晴

1 八幡宮に於て吉兆

十四乙卯日 雪 (記事なし)

十五丙辰日 晴

十六丁巳日 1. 恒何の御礼 2. 進藏庄兵江昨晩青森より登城
寅上刻雨已刻雨夜風 (記事なし)

十七戊午日 晴

十八己未日 晴

十九庚申日 晴

二十辛酉日 晴

廿一壬戌日 晴

廿二癸亥日 昨夜大風雨

廿三甲子日 風

廿四乙丑日 晴

廿五丙寅日 晴

廿六丁卯日 晴

廿七戊辰日 風雪

廿八己巳日 晴

廿九庚午日 晴

三十辛未日 晴

一 壬申日 晴

二 癸酉日 晴

三 甲戌日 晴

四 乙亥日 晴

五 丙子日 晴

六 丁丑日 晴

廿八己巳日 風雪
1. 諸御礼 2. 江戸より飛脚

廿九庚午日 晴

三十辛未日 晴

一 壬申日 晴

二 癸酉日 晴

三 甲戌日 晴

四 乙亥日 晴

五 丙子日 晴

六 丁丑日 晴

七 戊寅日 晴

八 己卯日 晴

九 庚辰日 晴

十 辛巳日 晴

十一 壬午日 晴

十二 癸未日 晴

十三 甲申日 晴

十四 乙酉日 晴

十五 丙戌日 晴

十六 丁亥日 晴

十七 戊子日 晴

十八 己丑日 晴

十九 庚寅日 晴

13、藩士の下駄ばき現制について

六丁丑日 霜 晴 酉刻地震

1、丹頂鶴北澤田村より差上ぐ

七戌寅日 卯刻地震日刻雨

1、式日寄合

八己卯日 午刻雨

1、5、本寺防火事につき家臣相談める

九庚辰日 風 晴

1、熾焼し足輕に衣類を与ふ

2、新城村で六日火事 3、江戸へ飛脚

十辛巳日 晴

1、5、夜廻勤之寛(五)

6、御物頭町中屋廻勤務について

十一壬午日 霜 晴

1、御郭夜廻の件 2、御宮本参ヶ派へ輸送の件

3、御鷹師、江戸より帰国

十二癸未日 風

1、式日寄合

十三甲申日 霜 晴 (記事なし)

十四乙酉日 霜 (記事なし)

十五丙戌日 霜

1、恒例の御礼 2、秋田の乱暴者野内南より直致

十六丁亥日 風

1、湯沢金山の状況報告

十七戊子日 霜

1、式日寄合

十八己丑日 霜

1、御鷹師江戸より到着

十九庚寅日 昨夜子刻雨及今卯刻

1、2、縁組、組入許可 3、殿様駿河台森火役任命さる

廿辛卯日 卯刻雨終日 (記事なし)

廿一壬辰日 晴 (記事なし)

廿二癸巳日 晴

1、式日寄合

廿三甲午日 晴 風

1、2、北郭にて五山の僧十三人にて大般若御祈禱

廿四丁未日 昨未刻風 雨及今午刻

1、江戸へ飛脚 2、古懸不動出汗、国上寺より注進

廿五丙申日 風雨

1、国上寺に神樂を申付く

廿六丁酉日 風

1、夜廻りの者へ乱暴の者について

廿七戊戌日 晴

1、竹内吉臣征門他江戸諸職人出発

廿八己亥日 晴

1、恒例の御礼

廿九庚子日 申刻雹 (記事なし)

延宝六戊午三月大

月番 盛岡主膳

一辛丑日 午刻雨

1. 恒例の御礼 2. 出銀請取役人任命 3. 江戸より

飛脚昨夜到着 4. 5家臣扶持について申来る

6. 家臣家督許可

二壬寅日 雨

1. 式日寄合

三癸卯日 風雨

1. 葛割の御礼 2. 庄右江内登城 3. 6. 先月廿六

日の夜廻に付する乱暴者の処分調査の上、夜廻りの

者にも奉公慮を申し付ける

四甲辰日 申酉刻雨

1. 長銀治助火事 2. 右により家中相詰める

五乙巳日 晴 (記事なし)

六丙午日 晴 (記事なし)

七丁未日 晴

1. 式日寄合 2. 尾太銀山役人の代役任命

3. 古懸の神楽料支給 4. 郡奉行への書付を出す手続

八戊申日 未下刻雨

1. 江戸へ飛脚

九己酉日 昨夜雨及今卯刻

1. 3. 武者より、内御玄關前はきものの寛(三)

十庚戌日 晴

1. 道中の鷹一居、酒田にて病死

2. 父留院へ使者 3. 外記登城

十一辛亥日 夜中雨

1. 麿ヶ沢御蔵の儘前焼大瓶又昌院様借田の件

十二壬子日 夜中風

1. 式日寄合

十三癸丑日 晴

1. 江戸より飛脚 2. 將軍より平蔵が難を拜領の由

3. 酒井種繁領より招待の件 首尾よき由

4. 家・康・秀・忠・光・綱・為・信・枚・義・政の十

一字名乗直應すべき由

十四甲寅日 晴

1. 平蔵難拜領の祝儀のため一内家臣登城

2. 名東の禁字申渡す 3. 素庵へ御書

十五乙卯日 巳刻雨

1. 恒例の御礼 2. 竹森武左江内病氣本復登城

十六丙辰日 晴

1. 本行寺へ船祈禱料 2. 江戸へ飛脚

3. 大直寺次郎市登城

十七丁巳 昨夜亥刻地震 晴

1. 式日寄合 2. 松井四郎兵の屋敷跡の馬ふく置場に

揺が主たる 3. 母衣町に役火あり、調査、警戒

1、大蓮寺次郎市、他登城

十九日未日 大風

1、江戸より飛脚 2、殿様撥珍類い軽くすぬ、祝儀の

ため一内家臣登城 3、下向の翌日御耳の如く、御

札の使者を決定 4、江戸詰物頭足後の出火対策

5、芝居許可 6、7、跡式許可 8、江戸へ登る惣代り

の旨の江戸詰の旨時変更 9、吉村堀左門上方登

りはのき甚右衛門預り直具の取扱いにのいて

民衆者の家系病死報告

廿二日未日 晴

1、式日寄合 2、江戸登の家臣病氣につぎ代役下命

3、殿町の撥火報告あり

廿三日未日 辰刻雨及終日

1、江戸へ飛脚 2、殿様本傳の江戸へ登せる摺代の寛

3、白戸石右衛門家来不届につぎ暇をとらせ臣所、石右

衛門方に押込み捕えられ、新罪を申渡さる

廿四日未日 晴

1、城中に紛入りし仙台番丹右衛門他追放 2、雲鷲上納

廿五日未日 晴風

1、唐牛与右衛門江戸より帰国 2、江戸より飛脚

3、藩主本傳につぎ御城女中方より御祝の手紙と廻拜領

の由 4、去月二四日古懸不動出汗の神事の御到益

により藩主病氣輕快と思召され、御礼の神事を執行

うよう申来る

廿六日未日 晴風

1、公方様より殿様御考物拜領の祝儀、一内登城

2、銅山御用については唐牛与右衛門の通りに従えと申

来る 3、古懸神祭の寛(四)

廿七日未日 晴

1、式日寄合 2、廿二日沖夜詠の松田村で家七軒焼失

3、昨夜内派村で火災 4、火事の際の手配

5、石根根米にて南部の兵左衛門探堀許可についての

申渡の寛(六)

廿八日未日 夜中雨 晴

1、恒例の御礼 2、庄兵左衛門夜青森より

3、鉦山に限らず山の土色の特別なもの申出よ

4、去月江戸登りの者への寸当の件について

5、江戸へ飛脚 6、古懸の御礼の神祭、首尾詰く終了

7、金山へ祝儀遣さる寛(六)

廿九日未日 晴

1、去年より江戸詰の職人下着

卅一日未日 晴

1、綴組許可

延宝六年戊午四月小 月番 進藤庄兵左

一未日 晴

1、恒例の御礼 2、前髪取許可

二未日 晴

一、式日寄合 2 去月四日江戸発足の石切佐左衛門一
昨下篇(他二) 5 浮田村菰穂より直鶴二並上ぐ
三亥酉日 賜

一、湯治願許可 2 江戸登小知行不足の件
3 江戸より飛脚 4 主殿の症瘴輕く先月廿一日相済
の由、一門以下祝儀のため登城 5 西橋の播、今
より以後台所役人が預り大切に代置く事を申渡す
四甲戌日 賜

一、元月江戸より欠落の二人の者が領分へ紛入りし時は
押えるよう親共へ申渡す(他一)

三二辛日 賜
一、財本奉行以下の名目録を差出を申付ける(他二)

六丙子日 賜 (記事なし)

七丁丑日 賜
一、式日寄合 2 大坂登米の上乗の者の誓詞
3 外々浪野崎村火事、四軒焼失

八戊寅日 巳刻雪雨終日
一、北村録右衛門江戸へ 2 江戸より藩士二人下着

三、町人五十嵐六郎石江内へ再び大坂登米を申渡す
四、御小人頭死亡にのぎ補充の件

九己卯日 賜

一、速寄十一日発足の江戸登の者へ注意を申渡す
二、下町前につき、破損修理を申付ける(他二)

十庚辰日 寅刻雨

一、宇別の薩島山へ火入れのところ、防ぎきれないところ
雨降つて消えた由

2 補充の御小人頭の江戸登りに金子貸与
三、当年の大坂登米船の上乗人の減員について

十一辛巳日 昨丑刻雨又終日
一、傍島主水以下江戸へ発足

十二壬午日 風雨
一、式日寄合

2 三、直祿庄兵江登米にのぎ跨ヶ沢へ(二)(他一)
十三癸未日 賜

一、鉄砲屋役人一人にて手廻兼お一人補充(他一)
3 左兵江歸る 4 家来二人不届につき碓岡より追放

十四甲申日 賜 (記事なし)
十五乙酉日 賜

一、恒例の御礼
十六丙戌日 賜

1 西郭の塩硝蔵の火消番仕命(他一)
3 御本城の屋根への水返上役を仕命

4 家来一人、不届に付き碓ヶ岡より追放
十七丁亥日 賜

一、式日寄合 2 江戸より飛脚
3 平蔵去月廿七日より疹煩いのため大方快癒の由、一内
以下祝儀のため登城

4. 殿様の火消役、先月廿八日付にて赦免の由

5. 久昌院へ端午の帷子 6. 北村内記の名替許可

7. 11. 倭島薩松、足立源左内門の屋敷替の件(五)

12. 報恩寺の訴状の件 13. 石田左次兵衛内門解除

14. 比多村源八屋敷長屋を立てる件

十八戌子日 寅刻雷鳴

1. 久昌院へ帷子、帯、のしを添えて

2. 3. 4. 雨岩殿の瘧疾正癒の祝儀のにめ登城(三)

5. 6. 御用昆布、並合所用物例年の通り下命(三)

十九己丑日 晴

1. 豊津崎積登荷物、当年無役を申渡す

2. 外ヶ浜の苗山より帆柱少々取立を許可

廿卯日 大雨迅雷

1. 蓮藤庄兵衛青森へ 2. 江戸へ飛脚

廿一辛卯日 晴 (記事なし)

廿二壬辰日

1. 式日寄合 2. 久保田市郎左内門足輕の野暮古

廿三癸巳日 晴 未刻雷數発雨

1. 山中六左内門足輕の野暮古

2. 小姓組木村八左内門外病氣につき下着

3. 岡田聖右内門の明日の野暮古用の火縄受取の件

4. 大鷲より、さうり七、差上ぐ、久昌院、玄蕃へ

廿四甲午日 未申刻迅雷大雨

1. 高倉五兵衛湯本より帰る

廿五乙未日 辰刻雨未刻雷聲 (記事なし)

廿六丙申日 晴 巳刻雨及申刻

1. 鰯ヶ沢番所江鉄炮二挺、鎗二本遣す

2. 伴市左内門眼病治療養生申付ける

廿七丁酉日 晴

1. 式日寄合 2. 表奥掃除の爲大工諸職人人足入込に

付、中小姓四人、二替にて申付けの事

廿八戊戌日 晴

1. 恒例の御礼 2. 本城三ヶ所の穴蔵作事、鰯ヶ沢よ

り舟大工五人、よく出精す

2. 平八郎三回忌法事、耕春院へ銀子その他

3. 久昌院、右法事へ焼香に (他一)

廿九己亥日 未刻暴雨迅雷數発

1. 十戸より飛脚(他一) 2. 五月十日比、江戸発賀の

由、廿八、九日頃着城子定(他一)

延宝六戊午年五月大 月番 盛岡主膳

一庚子日 昨未刻雨及今午刻

1. 恒例の御礼 2. 先月廿日鰯ヶ沢より津出の米十六

百十九俵横舟 廿六日秋田領渡處にて破壊の田、蔵

奉行より報告 3. 右米の改役派遣

二辛丑日 晴

1. 式日寄合 2. 江戸へ飛脚 3. 殿様薬王院へ祈祷

を仰付ける 4. 米横舟上乗佐藤三四郎行方不明の

田深浦横目付より飛札

十三日 晴

1. 上原佐藏三四郎死骸十三直未平の海中より上る、母に知らせあり、遠路にて土葬

2. 明日端午の御礼次才、申付ける

四日 晴 (記事なし)

五日 晴

1. 端午の祝儀(九)

六日 晴

1. 寺社より例年の通り、武吉も番所にて端午の祝儀

2. 祝儀を上げる

七日 晴

1. 寺社寄合(地一) 2. 高島薩松上屋敷内番勤務の件

(地一)

八日 晴 (記事なし)

九日 晴

1. 師匠の葬目十一通、今日相贈れる

2. 桂林鹿御歩行並今源右江門他今日到着

十日 晴

1. 山形迄の迎小荷駄二足口取小頭今日登る

十一日 晴 申刻雨及終夜 (記事なし)

十二日 晴

1. 式日寄合 2. 足輕小頭三名他一、江戸迄の者、病氣にておくれ、今日登す

十三日 晴 未刻雨

1. 師匠南無堂方改損修理の供事方途慮

2. 町内古玄江門江戸より到着

十四日 晴 (記事なし)

十五日 晴

1. 恒例の節社 2. 鶴田村永頭半右江門不届につき遊

山遊放 3. 山中六左江門、猪古のため足輕組中を

野に召使引に行く 4. 米船上乗参長左江門、船頭

宮田屋源兵衛米千百八十八俵積、八日に船出、十二

日深浦沖で列帆に遭い、三百四五十俵打捨て小泊に

入るに事なかり

5. 松平勘定守家村本船十二日十三にて破損の由

十六日 晴

1. 久保田市部左江門、足輕の野暮古

2. 針区高橋梅造、郭中に入り、一助田作兵征へ針仕置

の件、隔申次才、申渡す

十七日 晴

1. 式日寄合 2. 磯ヶ崎へ人足約五百人入り、飯肴一

日一分下さるに申渡す

3. 町内古玄江門二十前五人扶持、矢師彦兵征金十六兩

五人扶持、而名江戸召取のところ今日下着

る、宗根派の緒土、盗難、他人召捕える

4. 右、小枝伝之丞、士に不似合の私殺いたし、緒土を盗まされたに付、成田平右江門へお預け、家族処分

10 岡田理右衛門足輕の野稽古

11 台所荷物、先日廿七日江戸発展、本日下着

十八丁巳日 午刻雨及申刻

1 先日申付けの幕二張は立出来

2 北村、右衛門組小頭と戸五郎左衛門、御膳林右衛門

組の小技伝と重番事につぎ奉公直處申立る

3 渡辺次太夫組小頭宮館嘉左衛門、世木長右衛門組の

石師岡谷三左衛門無調法につき奉公直處申立る

4 碓屋預り人役替

十九戌午日 申刻雨

1 定田長左衛門の明日の寺参詣願許可

2 宮館外二名の奉公直處苦しからずの由申渡す

廿二未日 晴 午未刻大雨

1 江戸より飛脚

廿一戌申日 晴

1 前北村三名、三日江戸発にて昨夜下着

2 小人の上家二前三向の小屋の由、荒浪彈右衛門毎能

廿二辛酉日 辰刻大雨雷電数発

1 式日寄合 2 江戸より飛脚 3 廿一日江戸発

駕の由 4 津輕安廿十日、初節目見首尾能く終る

5 伊左衛門、十五、大日比、江戸発足の由

6 8 重臣の屋敷替等(三) 9 江戸にて足輕又落、

知行取放ち

廿三壬戌日 晴

1 大鷲村湯ひじりより、直向二、茄子十五上ぐ

2 御納戸荷物預り役下着 2 足輕組野稽古

4 報恩寺建立の一丈六尺十一面観音堂共出来、入仏供

養、御礼

廿四癸亥日 晴

1 直中、山形、江戸へ飛脚 2 足輕組野稽古

3 先馬役二名と馬医兵左衛門、先馬五疋本日下着

廿五甲子日 晴

1 七戸五郎左衛門御奉公直處の儀苦しからず相勤むる

よう

廿六乙丑日 晴

1 御鉄炮屋奉行の役目任命

廿七丙寅日 晴

1 式日寄合 2 幕王院の祈禱料年銀十枚と相定む

3 紫役人の扶持下されず、飯米十俵を

廿八丁卯日 晴

1 恒例の御礼 2 角助と申す者牛を盗み、追掛けら

れ自害 3 小姓、歩行組頭の病気の看下着

4 一町田作兵左衛門死、六十六

廿九戌戌日 晴 (記事左し)

世己巳日 晴

1 家臣の家敷替 2 乳井宗左衛門十九日下着、直中

傳寒になり本日死亡、二十三 子無し

庚戌年六月小

月番 進藤庄兵衛

一庚午日 喝

1.恒例の御礼 2.江戸より飛脚

3.吉廿一日発駕、十九日振到着の日積

4.5伊左江門吉十八日江戸発足(二)

6.長勝寺後住の件、耕耨院へ申渡す

二辛未日 喝

1.式日寄合 2.下向の柏りの碇ヶ岡の宿札に對する

注意を申越す

三壬申日 喝 入土用

1.伊左江門を迎へる使者、碇ヶ岡へ(三)

4.津輕島左江門の七回忌、報恩寺にて

5.龜甲町祇多屋敷を石渡へ移す件

6.長勝寺後住の迎への僧出発

7.大門寺、湯殿山参詣につき例年の通り初尾銀一枚

四壬午日 喝 願

1.足輕組野碇古(他一)

五甲戌日 雨

1.直中山形より飛脚 2.着城は本城へ、次に北郭へ

3.着城の日の御目見えの諸士、町在の人は例年の通り

4.足輕組野碇古

六乙亥日 喝

1.下向用御目一、碇ヶ岡へ遣す 2.岡文左江門を
碇ヶ岡へ 3.郭内の清掃を番所へ申付けける

七丙子日 喝

1.式日寄合 2.下向前の諸事打合せ 3.伊左江門

昨日碇ヶ岡下着 4.直中付泰の者申付る

5.碇ヶ岡賄、支度申付る(他一) 6.伊左江門弘前着

(他一) 7.殿様到着時の贈、料理、二汁五菜、夜

食、そのめん、濃茶等(他四) 8.湊より飛脚、殿様

機嫌良し

八丁丑日 喝

1.碇ヶ岡まで機嫌伺の飛脚

九戊寅日 喝

1.四月十八日御暇延領、五月廿一日江戸発駕 今日日

の中刻着城、後、文晔院へ

2.3.8.一門、重臣登城、出迎へ、御目見(七)

9.文晔院より祝儀の使者 10.37.着城の儀形式通り

(廿八) 38.45.素庵より祝儀、返礼の使者(八)

(他三)

十己卯日 喝

1.5.長祿着用にて長勝寺廟参(五)

6.7.江戸へ使者(二) 8.初真奈五、大鷗より献上(

他一) 10.献上の漬蔵登す 11.鷹の獲物差上ぐ

12.36.献上並に贈物、酒井雅衆願その他へ(廿五)

十一庚辰日 喝

1. 4. 機嫌伺い等(四) 5. 百沢寺、園上寺より守札
6. 鷹の獲物差上ぐ

十二辛巳日 賜

1. 式日寄合 2. 外ヶ決秋、熊二枚御蔵へ献上

3. 下向の時、瓜、茄子を差上げた大鰯の湯びじりに褒

美 4. 5. 土用機嫌伺(三) 7. 最勝院より守札

8. 9. 文昌院、その他へ贈品(三) 11. 12. 夕食廻、西

馬場へ(三) 13. 鷹の獲物差上ぐ

十三壬午日 賜

1. 左門機嫌伺いに登城 2. 7. 鷹の獲物を文昌院

その他へ(六) 8. 素庵より使者(他一)

10. 文濃寺より御守札 11. 夕食後文昌院へ(他二)

十四癸未日 賜

1. 報恩寺に一丈六尺の十一面観音建立、進出来、去月

十五日入仏の供養の前薄、御守札、神酒、同廿一日

誓上り、今日披露 2. 五山並神宮寺首城の祝儀中

しまり、御耳に達す(他三)、6. 西馬場へ(他一)

十五甲申日 賜

1. 御座間にて、庄右江門と対顔 2. 5. 着城の祝儀

樽代等差上ぐ(四) 6. 油布桶樽儀、御礼肴一人籠

出(他一) 7. 文昌院へ

8. 留守中の寄合帳三冊、定書二、勤仕の書付差上ぐ

9. 園文左江門他二名を召し留守中の儀尋ねる

10. 虎多村源八萬御用向見習を命ず

11. 12. 留守中の儀、目付等に尋ねる(二) 13. 十左江門
御役赦免申渡す 14. 犬籠者、台所に紛入、乱氣の

由、依りて出入を数重にせよと申付る(二)

十六乙酉日 申刻雨交終夜

1. 5. 玄蕃へ留守中の物をねぎらい、褒美の金品、並

に馳走、主膳使者、玄蕃より御礼(五)

6. 7. 文昌院へ贈品、使者、右御礼(二)

8. 主膳、庄兵江へ留守中の骨折を質す(他五)

十七丙戌日 賜

1. 5. 4. 長徳着用にて東照宮参拜 5. 式日寄合

6. 虎多村源八田向見習のため、初て寄合所へ

7. 江戸より飛脚 8. 文昌院より明晩料理を催める使

者 9. 右へ御礼の使者 10. 西馬場にて妻馬

十八丁亥日 賜

1. 昨日の飛脚、端午の時の御内書持参、上下にて御覽

2. 將軍より平蔵、策二十拜領、稽首を催める

3. 右のため、一内より御物奉行、祝詞のため登城

4. 素庵へ帷子、銀子二十枚等贈る 5. 5. 7. 右の御礼

の使者(三) 8. 名督領許可 9. 園上寺より守札

10. 明晩の伊左江門、庄右江門へ馳走の使者

11. 今晩文昌院へ行くにあたり祝儀、目録の廻り

12. 伊左江門、庄右江門より御礼の使者 13. 北の丸へ

文昌院へ 14. 玄蕃以下明晩の料理頂戴の御礼(三)

15. 16. 文昌院へ使者往復(二) 17. 鷹の獲物

十九戌子日 賜

1. 8 素庵望城、対顔、馳走(ハ)

御前より仰出され候、寛(年頭、節句、平生の勤務)

廿五丑日 晦 夜中雨

1 伊左江門北堂七回忌法事、貞昌寺にて

2 世葬頭への付届能入にと申渡す

3 本城、二郭画図の折りの申渡し 4 次郎市の御部

屋棟へ鷹の獲物 5 文昌院へも 6 長泉院へも

7 伊左江門より香奠御礼 8 文昌院へ

廿一庚寅日 賜

1 勤番補充、交替の申渡し 2 江戸へ飛脚(他一)

3 玄番、左門登城 4 文昌院へ 5 未廿三日、又

昌院へ出掛けるに付、先年通り料理等を仰せ出す

日二辛卯日 賜

1 式日書白 2 文昌院より使者 3 文昌院へ

4 明廿三日、又昌院へ御出の指示 5 鷹狩の時期上申

廿三壬辰日 申酉戌刻大雨

1 明廿四日の松田五郎左江門、全書初進につき出座の

面々上下着用に申渡す

2 舊城後の祝儀、又昌院へ、料理、御酒

3 一門一内等にも料理等(十五)

廿四癸巳日 晦

1 松田五郎左江門、全書初て講習

2 4 右につき料理、一門重臣相伴(三)

5 庄右江門対顔 6 寺院参詣の折の歩行頭一人、中

小姓頭一人上下着用の上御供を申渡す

7 中川小唄人組羽賀長右江門、知行召上げ出放

8 折敷一年切、二年切の替置るように目論、書付を出

すように申渡す(他一)

9 公儀への書付は印判書置、書判を以て差上ぐべき事

10 大町寺、湯殿山下向の由、御札差上ぐ

11 御巨魁羅許可 12 鷹の獲物を高倉五兵衛、そ

の他へ(五) 13 詠の味方、江戸より昨晚到着

14 伊左江門、明日報恩寺へ参詣

廿三甲午日 賜

1 5 6 東照寺へ参参(ハ)

寛(京都にて皆済につき)

一元張 十五貫目 已三月よりの借求一通

一同二百十貫目 同五月より、六通

一同 百貫目 同六月よりの、五通

一同 二十五貫目 同七月より、一通

之銀三百五十貫目 十三通

右の通り皆済につき、延宝六年三月

8 今月十六、十七日大風にて酒田より米代、諸廻船三

百艘程夜振の由、本兵江より申来る

9 本兵馬場へ御出

廿六乙未日 賜

1 文昌院へ 2 玄番登城 3 伊左江門へ明晩料理

を上ける使者(他一) 5.6 明廿七、若殿拜領の有料理、相伴の件(二) 7.文昌院より使者

8.北村武左衛門長病のため御役は他の者が補うよう(三)(他一) 10 橋聖寺より御守札

11 鷹の獲物を差上ぐ

廿七日申日 陽

1.式日寄合 2.平藏の將軍より拜領の有の料理ニ汁

七菜、相伴、伊左衛門、庄右衛門、玄蕃、外記、左内、以下老臣 3.5 右料理の見積、御膳係等(三)

6.鷹の獲物を差上ぐ(二)

廿八丁酉日 陽

1.2 恒例の御礼 3.4 御目見、御礼(二)

5.伊左衛門御出 6.文昌院へ 7.大道寺次郎市内

室(信政の妹)七回忌法事、耕春院にて、香奠

8.華亮当後住、東泉寺より願置候通り仰付け、耕春院

を玄岡上ノ向に召寄申渡す

9.10 鷹の獲物を一羽の者へ、同返礼(二)

11 今朝御目見の諸士の品、過怠いたし候間、以後差図

を申渡すよう目付へ 12 高杉全右衛門長病故御役

御免許可 13 石田左次兵衛夜廻中に岩本甚兵衛に

不届致し、知行没取の上、弘前より五里外へ追放

は、御礼の次才一継目、祝言、初目見、名替等について

先年仰出された通り申渡す 15 百沢寺より御守札

廿九戌戌日 陽

1.中小姓預りの鼓、他出の時のため小知行一人、儀五つ

2.最勝院より御守札 3.書院にて式目全書講習

延宝六戌午年七月大

丹番 監岡主膳

一己亥日 陽

1.5 10 恒例の御礼(十) 11 12 文昌院より使者

13 素庵へ使者 14 西馬場へ御出 15 松前兵庫より

飛札 16 山松山の件願の通許可 18 尾太御山へ

の出張命令 19 三十文目玉目の御持簡一挺出表

20 藩士病長の節の勤務について 22 例年の通り馬

方へ駒ひき集める 23 江戸より飛脚 24 公方様

へ土用の伺いとして熟魚献上 25 女院前御により

五日まで鳴物停止 26 27 玄蕃り登城 28 素庵ら

へ切紙 29 定田長右衛門へ江戸登りを命ず

30 外ヶ次より大綱一枚献上

二庚子日 陰

1.伊左衛門登城 2.女院前御にのき將軍へ機嫌伺い

の使者 3.式日寄合 4.松前兵庫へ返書

5.鷹の青鷲等を献上

三辛丑日 陽

1.由守中の諸色御入用帳八冊を献上

2.当地近所での登せ米の打米、濡米で損失分の報告書

3.家中諸士拜領の下屋敷帳面にのいて仰出

4.鷹の青鷲ら献上 5.報恩寺より御守札

6 藩士の家督相続願の病氣による変更について
7 玄藩へ百両四方の下屋敷を下さる旨 8 久昌
院等へ鷹の青鷲を直上 14 主膳ら夕御膳相伴
四上室日 (天候好し)

1 能多村源八の屋敷の工事状況視察 2 兵書につい
て講習 3 華秀寺の張番 4 左内へ使者

五 卯日 昨夜雨 晴

1 長勝寺への例年の参詣なし 2 伊左江門の合力金
について申渡す 3 久昌院より使者 4 坊主と
和徳町派願の屋敷に火災生ずる

5 藩士の病氣看護を許可 6 外記、夜食の相仕

六 甲辰日 晴

1 外記、屋敷并領の仕め祝儀直上 2 役名の改称
(先手ト大組の頭、手前足輕頭ト御持筒足輕頭、
並御足輕頭ト惣足輕頭) 3 杉山八兵衛ら

へ鷹の青鷲直上 8 玄藩登城 9 伊左江門へ御
出かけ 10 久昌院へ使者 11 鷹の獲物直上

12 御幕改帳を差上げ 13 武具蔵に置かれたままの

水書を小屏人方へ返す 14 久昌院へ 15 久蔵寺

より御守札 16 久昌院より使者 17 素庵へ使

者 18 本城北西の郭と二三郭で鷹鷹を打取れる旨

七 己日 晴

1 嘉例の御礼 5 尾木銀山より銀子四十貫差上
ぐ 6 主膳ら御相伴 7 本村空之助所持の馬を

差上ぐべき旨 8 鷹鷹の打道具は御手筒とする旨

八 丙午日 晴

1 江戸より飛脚 2 盛岡主膳尾木銀山見分に

3 江戸へ飛脚 4 四上寺より御守札

九 丁未日 晴

1 兵書の講習 2 鷹の青鷲を直上

3 伝次という氣狂者を遺放

十 戊申日 晴

1 江戸へ登る女の廻状の文言 2 久昌院より使者

3 鷹の獲物直上 4 素庵の折舞にお出かけ

十一 己酉日 晴 午刻雷 酉刻電

1 薩先寺の後住を月峰院に仰付る 2 久昌院来

詔(十四) 16 主膳尾木より帰る 17 祝儀下

されに寛(六)

十二 庚戌日 晴

1 式日寄合 2 百沢寺、橋雲寺より御守札

3 書院にて狂言御覧

十三 辛亥日 晴

1 おなへとの儀について 2 久昌院に女中召抱える

3 狂言師へ麻上下等下さる

4 長勝寺報恩寺の施餼鬼に張番を命ず

十四 壬子日 晴

1 長勝寺へ廟参る 6 山田清左江門下着
り明日まで施餼鬼(四)

11 伊左江門の登城延引の旨

十五癸丑日 賜

1. 出仕なし
2. 最勝院より御守札
3. 太光寺の百姓より新米
4. 主膳らへ新米下さる
5. 久昌院より使者
6. 久昌院、長勝寺耕春院へ参詣(三)
9. 久昌院へ使者
10. 城内有右江門江戸より下着
11. 大坂着の米の請取手形
12. 玄蕃相伴

十六甲寅日 未刻雷雨夜中雨

1. 外記登城
2. 久昌院へ
3. 左右江門御出仰置かる
4. 源次郎登城
5. 舞台にて拍子御覧
6. 役者に帷子等下さる
7. 見物の面々の詰席について

8. 報恩寺中岡一人を追放

十七乙卯日 晦 夜中雨

1. 式日寄合
2. 報恩寺へ米二十俵遣す
3. 長勝寺へ紛れこんだ旅坊主を追放
4. 左門登城
5. 久昌院より使者
6. 国上寺々渡寺より御守札
7. 導道箱手紙添えて伊左江門へ遣さる
8. 足輕の野
9. 守札の進上について
10. 久昌院より使者

十八丙辰日 昨夜雨及今辰刻 未刻地震

1. 久昌院より使者
2. 羽賀喜左江門の後仕を任命
3. 棟方十左江門、内番下場無用の由
4. 橋雲寺病死
5. 樂屋奉行を任命
6. 9. 不屈の者を町預り(四)
10. 久昌院より使者
11. 伊左江門より使

12. 同庄右江門御出被仰置御帰

13. 素庵へ使者

十九丁巳日 賜 酉刻雨

1. 兵書講習
2. 伊左江門へ御出
3. 高倉五兵登城
4. 藩士の病氣養生につき仰出(三)
5. 灵芝三本、床舞村へ生じ、絵師を遣す
6. 久昌院へ
8. 報恩寺へ香奠

諸道具改の儀申渡の旨

廿戊午日 昨夜中大風雨及今卯上刻

1. 久昌院へ使者
2. 久昌院より使者
3. 玄蕃ら登城
4. 庄右江門お出
5. 武者毛御門前の造作
7. 伊左江門湯治につきお供を命を命す
8. 武者毛御門の出来るまでの番所について
9. 諸道具改入らを任命
10. 山口嘉津石江門到着
11. 5. 昨夜の大風で倒壊した家の寛
16. 夜食の相伴者

廿一日未日 賜

1. 左門の息子昨晚病死
2. 左門へ使者
3. 門殿玄伯儀、病人ある場合は台所へ呼ぶこととす
4. 城内有右江門の勤番につき命す

廿二庚申日 賜

1. 式日寄合
2. 最勝院より御守札
3. 久昌院へ使者
4. 久昌院より使者
5. 五兵登城
2. 鷹の青鷺など進上
3. 兵書講習

4. 百沢寺のり御守札 5. 十九日の夜大戸で破壊した
個所の書上寛(十三項) 6. 猿賀置家破壊の寛(十項)
7. 浪岡置家破壊の寛(七項) 8. 高杉置家破壊の寛(六
三項) 9. 神明堂破壊の寛(三項)

10. 銅山庫上への乞願を許可 11. 木舞村に灵芝三本生
える 12. 江戸より飛脚 13. 漬炭献上の奉書判書

14. 石港に蔵造依 15. 22森土奉行に不正あり関係者
を処断(八)

廿四日 戌日 夜雨

1. 其書の講習 2. 新藤某を弘前退放

3. 津島吉兵衛を知行没取 4. 有海市石江門を閉門

5. 富士の処分 6. 左右江門へ料理を遣す

廿五日 亥日 星夜雨

1. むさう石十文目御牛千右江門へ渡す

2. 鈴木彦兵衛へ切米五十石を太坂にて下さる

4. 長勝寺判書 5. 長勝寺らへ御目見の趣

6. 御拍子組の一覽 7. 兎物を命ぜられに面々

廿六日 子日 晴

1. 伊左江門より使者 2. 似せ茶毒薬の煎煮を禁する

3. 臨時に雨請、風祭を禁する旨最勝院らへ申渡す

4. 江戸より飛脚、昨夜下着

5. 又置院より使者 6. 西馬場へお出

廿七日 丑日 晴

1. 式日寄台 2. 岡田理石江門亡室十三年忌法事、香奠
3. 生體坂井下届、雪景 4. 鷹の白鷺など献上
5. 又置院へ、御料理 6. 11. 海階のあと拍子組(六)

廿八日 寅日 晴

1. 江戸へ飛脚 2. 14. 恒例の御礼(十三)

15. 鷹の雪景を津田仙庵頂戴 16. 奉公置慮の赦免

17. 足田長五江門江戸より下着

廿九日 卯日 晴

1. 兵書講習 2. 最勝院より御守札

3. 浅尾庄太郎に役儀の勘定を命ず

世辰辰日 晴

1. 足立源左江門西馬場に巻事あり、目撃野沢園吉打へ

ちの届を命ず 2. 3. 同人の母には五人扶持(三)

4. 十應某を斬罪 5. 同人家内肉所

6. 沼田七郎兵衛を弘前五里外へ追放 7. 同人子も同

8. 杉山八兵衛に屋敷直守屋の勤方を調査しなかりたか

どで閉門

延宝六戌年 丑八月大 月番 渡辺次大夫

一己日 (天候の記事なし、以下同)

1. 恒例の御礼(四) 5. 昆多村源八病氣本復登城

6. 又置院より使者 7. 又置院へ 8. 伊左江門入湯

二庚午日

1. 式日寄台 2. 神明堂の橋取損への乞掛直す

3. 西沢寺より岩木山の普賢を世上
4. 御鷹の青鷲などを世上
三々末日

1. 龍泉寺の後住について 2. 最勝院の祈状につき如
遣 3. 八幡の宝物入置く土蔵は公儀より命する旨
4. 本参四組より人数書出の帳面を差上ぐ
5. 下之切普請の御役を命す 6. 久昌院へ
7. 龍泉寺より御守札 8. 鷹の青鷲を玄蕃へ遣す
10. 主膳の病氣お尋ね 11. 五兵衛様伺いに登城
鷹の青鷲を世上
四々申日

1. 主膳登城 2. 左内忌明登城 3. 兵書講習
4. 外記、左内へ鷹の青鷲を世上 (二)
6. 正田、堀守日より勤務 8. 山本三郎左内湯治
許可 9. 12. 素庵、庄右内へ使者 (四)
13. 御能見物の御礼 (三) 15. 七日、八日主馬三回忌
につき、法事料米二十俵を遣す

五々酉日

1. 龍の前、舞台において薄江次太夫が勤むべき旨
2. 久昌院へ 3. 久昌院より使者
六甲戌日

御能あり

1. 5. 列座の位置 (五)
上番番組

6. 19. 龍四番過中入、座敷の寛 役者へ下され物の
寛 歩行目付、足輕目付へ申付の寛 (九項目)
七乙亥日

1. 5. 昨日の龍の祝儀を世上 (三) 4. 式日寄合
5. 國上寺々渡寺より御守札 6. 二番駐進上
八丙子日

1. 飛脚へ飛脚 2. 蘇土に用する不届者を邊放
3. 主馬の三四忌法事に香奠 4. 久昌院へ
5. 文保田市郎左内、手筒の巻を支配に變更
6. 相役の任命 7. 長勝寺の十六羅漢を山内へ移す
8. 名替許可 9. 歩行目付を病氣故に赦免
10. 名跡願許可 11. 隠居願許可

九丁丑日

1. 兵書講習 2. 鷹の青鷲を世上 3. 正田今別
の御手山における面木盗出、その他の不正事件關係
者を処分 (十九)

十戌寅日

1. 清蔵の荷宰昨晚到着 2. 庄右内お出、村旗
3. 久昌院へ 4. 懸ケ米における祭を許可
5. 名替許可 6. 鷹の青鷲を高倉五兵衛へ下さる
8. 同じく献上 9. 手廻組の役馬を二覧
十一己卯日

1. 2. 久昌院より使者 3. 鷹の青鷲を世上
4. 5. 8. 久昌院、神明堂等へ参詣 (五)

料理人、江戸より到着

十二庚辰日

1. 式日寄合 2. 預内の田地の検見を命ず

3. 4. 鷹の青鷲、渡辺らへ下さる 5. 左門登城

6. 文昌院へ

十三辛巳日

1. 松前兵庫参勤につき三馬屋へ使者

2. 左京より菓子折 3. 4. 素庵へ使者(二)

5. 文昌院より使者 6. 平十郎母儀へ使者

十四壬午日

1. 左門登城 2. 八幡宮の神酒を披露 3. 大道寺次

郎市登城 4. 伊左江門大將より帰リ登城

十五癸未日

1. 恒例の御礼 2. 3. 4. 八幡宮へ御参(三)

5. 11 聚勝院へ入りせらる(七) 12. 文昌院へ使者

十六甲申日

1. 玄菟登城 2. 3. 文昌院へ使者(二)

4. 大浜にて留めた單を御覧 5. 親方町失火の節、ス

襦に働いた者へ褒美 6. 成田忠右江門病氣、跡役

を命ず 7. 横町組頭甚兵衛初そばを上けるにより

米一俵下さる

十七乙酉日

1. 式日寄合 2. 左門、次郎市登城

3. 文昌院より使者 4. 文昌院へ

5. 素庵より使者 6. 圓上寺より御守札

十八丙戌日

1. 庄兵江に青森差配を命ず 2. 3. 4. 鷹の青鷲、直上(三)

5. 成田宮右江門、病氣故御役御免 6. 隠居許可

7. 病氣の藩士に暇を賜う 8. 9. 寺沢玄素不屈故扶持

切米没取(二) 10. 鈴木可卜儀前の通り奉公すべき

旨 11. 舊西直衛、扶持没取 12. 岡本宗仙不義あ

り、弘前五里外へ追放 13. 帯刀の知行蔵入とす

14. 鉄炮の合衆を今後別々に保管すべき旨

15. 勤勉な藩士へ褒美 16. 破損奉行、無筆故御役御免

17. 破損奉行の後任補充 18. 破損奉行を仕事奉行の支

配とす 19. 一町田らへ御召帷子を下さる

20. 素庵へお出かけ 21. 田守信は次太夫

十九丁亥日

1. 殿師善之丞下着 2. 式日兵書講習

3. 庄右江門御出 4. 文昌院へ

5. 初鷹一、染屋町左五兵衛直上

廿戊子日

1. 小納戸役を任命 2. 鉄炮茶千景目の帗備を命ず

3. 明日御能

廿一己丑日

1. 文昌院入来 2. 素庵等の座席

3. 一門方、老中ら順次着席 4. 瀧能番組

5. 12 能終了後の宴(ハ)

廿二庚寅日

1. 式日寄合
2. 与力三人の知行を鷹入とす
3. 最勝院より御守札
4. 御機嫌伺い
5. 久昌院へ
6. 報恩寺へ

廿三辛卯日

1. 江戸へ飛脚
2. 大湯市兵江へ帷子を贈る
3. 鷹の小鴨など献上
4. 縁組許可
5. 6. 惣領願を許可
7. 奉公願の許可
8. 隠居願許可
9. 10. 勤仕精励につき褒美を下された面々
11. 12. 湯治願許可
13. 中小姓役を任命
14. 堀小姓役を任命
15. 今別の秋、臘胸獸一、昆布一
- 把など台所へ進上
16. 玄蕃へお出

廿四壬辰日

1. 小納戸役を任命
2. 久昌院より使者
3. 兵書講習
4. 次郎市登城
5. 6. 縁組許可
7. 狹へ米三俵宛下さる
8. 9. 10. 鷹の青鷺を棒方十左
- 江戸内室らへ下さる

廿五癸巳日

1. 江戸より飛脚
 2. 3. 5. 報恩寺へ仏参(四)
 6. 江戸へ飛脚
 7. 益部園都より平安一句を聞かす
- 廿六甲午日

1. 主膳病氣
 2. 紫根を登す
 3. 小姓組に任用
 4. 5. 6. 庄右江内へ使者
 7. 鷹の青鷺進上
- 廿七乙未日

1. 式日寄合

2. 杉山へ兵江屋裏中の指揮
3. 与力頭の代り、次太夫支配を命ず
4. 左門登城
5. 久昌院へ使者
6. 鷹の直鴨進上
7. 庄右江内へお出

廿八丙申日

1. 恒例の御礼
2. 久昌院へ
3. 小姓組の誓詞
4. 黄鷹を御覧
5. 6. 7. 鷹の青鷺進上
8. 西馬場へお出かけ

廿九丁酉日

1. 兵書講習
2. 久昌院より使者
3. 与力の知行南高の書付を上呈

卅戌戌日

1. 長利支丹改の目録を上呈
2. 冠御厄の許可
3. 湯治願許可
4. 座向坊主、直中無調法、扶持没取
5. 最勝院などより御守札
6. 鷹の白鷺進上

延宝六戊午丑九月小

月番 盛岡主膳

一己亥日 雨

1. 3. 恒例の御礼(三)
4. 久昌院より使者
5. 久昌院へ
6. 7. 鷹匠らへ褒美下さる(二)
8. 堀小姓を任命

二庚子日 雨

1. 式日寄合
2. 中小姓の誓詞
3. 金木村よりの鷹を御覧
4. 久昌院より使者

5 鷹の真鴨一その他のを直上

三辛五日 霜陽

1 3 先寺鉄炮御覧のため小沢野へお出かけ(三)

4 八郎市登城 5 北浮田村観音林に灵芝あり直上

6 報恩寺等より御守札 7 又昌院より使者

8 鵜飼一羽直上 9 鷹の直鴨など直上

四辛五日 雨

1 兵書講習 2 3 又昌院へ重陽の時服遣す(二)

4 庄右江内へ料理を遣すべき由

5 波岡村で提えた鵜を御覧 6 又昌院へ

7 報恩寺より御守札 8 10 唐牛内蔵より給与、お

仕着につぎ指玉(三) 11 15 鵜の料理あり、相伴

番手(五) 16 又番手より右の御札

五辛五日 晴

1 位殿にて参礼 2 島田森よりの黄鷹を御覧

3 17 三時寺へお出かけ(五)

六辛五日 晴

1 2 島七二本その他の預り人を指示

3 又番へ下屋敷下さる 4 又昌院の供にて浅虫へ出

向の際の供奉について 5 お通りの時分の番所の

配置につき指示 6 時寺向番人らの警詞

7 岡八郎左江内の新屋敷への移転祝い 8 左内登城

9 又昌院より使者 10 又昌院へ使者

七乙巳日 晴

1 式日寄合 2 江戸より荷物到着

3 奉書一通到着 4 又昌院へ料理直上

5 6 庄右江内へ鉄炮等遣す 7 相打の黄鷹を御覧

8 鷹の青鷹を直上 9 又昌院申下刻お帰る

八丙午日 晴

1 外記等登城 2 又昌院へ

3 東照宮の祭礼はこれまで通り榮王院が営むき旨

4 又番の下屋敷へ堀をつくることを許す

5 馬取組小頭二人を任用 6 鷹師の跡式許可

7 甚石江内 鉄炮を拜領 8 田中半右江内より拜借

額を許可 9 西馬場にて馬を御覧

10 景勝院等より御守札 11 又昌院より使者

12 鷹の真鴨の料理を振替わる

九丁未日 晴

1 壺場の御祝儀進物を御覧 2 3 恒例の御札(三)

4 5 6 又昌院へ(三) 7 狸市よりの黄鷹を御覧

8 泰庵より使者 9 百沢寺より御守札 10 又昌院へ

11 鵜二居を御覧 12 鷹の鴨などを直上

13 又昌院へお湯帷子を直さる

十戌申日 晴

1 11 御能あり(十一)

十一己酉日 辰刻雷発大雨

1 又昌院より使者 2 3 9 又昌院、浅虫へ湯治(八)

10 百沢寺より御守札 11 庄右江内と対顔

に古笠を参城 鷹の白鷺を進上 14 藤原の鶴を

進上 15 北の郷と恵平町の郷の土を普請方へ下中

成し 16 藤原の鶴を 17 出資にのきお行と上り十鶴を

取上り 18 置放中の鶴士で給ひみ 更に進事を

19 10 鶴を斬罪

12 夜雨 13 夜雨

1 式日寄合 2 浅虫の文昌院へ御挨拶伺ひの飛脚を

置す 3 湯治中の兼恩寺住職病死

十三辛未日 雨

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

十四壬子日 晴

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

十五癸丑日 晴 風

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

十六甲寅日 晴 晴 昨夜上刻地震

1 玄蕃御礼のため参城 2 勘普にのき指示

3 松前兵庫 野田へ一泊 4 同入より十文並へ

5 野平地へ直ぐ渡海の由 6 御札の飛札到来

7 鶴士、病氣養生のため、親類并方へ罷出でたき由、

願を許す 8 兼恩寺への御守の巻指を取止め

9 牛馬の者へ一依下さる 10 中向の者不届あり

11 兼恩寺の鶴料理を振攝り

十七乙卯日 晴 晴

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

3 兼恩寺へ使者 4 兼恩寺より御守札

5 兼恩寺へ使者 6 兼恩寺より御守札

7 兼恩寺へ使者 8 兼恩寺より御守札

9 兼恩寺へ使者 10 兼恩寺より御守札

十八丙辰日 晴 晴

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

3 兼恩寺へ使者 4 兼恩寺より御守札

5 兼恩寺へ使者 6 兼恩寺より御守札

7 兼恩寺へ使者 8 兼恩寺より御守札

十九丁巳日 晴 風

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

3 兼恩寺へ使者 4 兼恩寺より御守札

廿戊午日 雨

1 兼恩寺へ使者 2 兼恩寺より御守札

3 兼恩寺へ使者 4 兼恩寺より御守札

5 兼恩寺へ使者 6 兼恩寺より御守札

5 江戸よりの台所荷物(茶袋など)到着

廿二未日 賜 酉刻雨

1 幕庵へ茶袋など進上 2 小姓組の誓詞

3 次郎市登城 4 外記、左門の黒石参詣を許す

廿二庚申日 味酉刻雨及辰刻晴

1 黒石御廟へ代参 2 式日寿合

3 最勝院百沢寺より御守札 4 江戸よりの飛脚到着

(米鉢土の相場に附する情報)

廿三辛酉日 晴

1 11 古懸へ参詣(十一) 12 江戸へ飛脚

13 玄家の新宅への移転祝 14 酉刻、古懸より帰る

15 次郎市登城 16 鷹の白鷺など進上

17 太田茂太夫、御礼に参る

廿四壬戌日 寶卯刻雨 晴

1 兵衛講習 2 3 幕庵へ京柿進上(三)

4 又留院へも同様進上 5 吉内村の鶴を御覧

17 幕庵方への申渡 8 掃除防主の跡式に指示

9 幕庵敷の貸与について許可

10 長勝寺へ料理下さるべき旨

廿五癸亥日 晴

1 臥敷にて祭礼 2 3 4 報恩寺へ仏参(三)

5 15 長勝寺へ料理下されたま(十一)

16 以上寺御礼の日の参城

17 御覧立至上申すべき旨申渡す 18 湯治願許可

廿六甲子日 卯刻雨終日

1 江戸より飛脚 2 甲府宰相逝去の由

3 御機嫌伺いのため使者を派遣

4 長勝寺などへ伺耳の如く茶袋を進上

5 龍樂頭への進物を登す 6 上屋敷を黒滝光悦へ許す

7 夕御膳の相伴 8 庄右内にお出

(廿七乙丑日——日記原本に記入なし)

廿八丙寅日 雨

1 3 5 恒例の御礼(五)

6 玄種の風氣見舞の使者

7 外記、次郎市下屋敷望の場所の絵図を呈上ぐ

8 3 藩士の跡式を許可(二)

10 鷹師病死、相続人なく知行没収

11 唐牛与右内門より御承普請についての願書を提出し、

認められる

廿九丁卯日 晴 晴

1 午五一、唐牛与右内京都より持参

2 湯治願許可

3 百沢寺、最勝院より御守札

4 夕御膳の相伴

5 本郷で留めた山鳩御覧

延宝六戊午年十月七

月番

渡辺次夫

一 辰辰日 賜

1. 2 恒例の御礼 (三)

4 朝比奈所左江を二百石にて召出す

5 小島伝兵衛鷹野場より帰リ登城

二 己巳日 賜 子刻雨

1 式日寄合 2 又昌院浅虫よりの帰途取回留泊

3 又番大梨子一台を上ける 4 波岡への使者福士九

右江門歸リ登城

三 庚午日 昧子刻雨及今辰刻 晴

1 外記、左門登城 2 金木にて治置く葺鷹御覽

3 五山より御守札 4 長峰村小右江門を起度露出す

べき旨申渡す 5 和右江門奥所の某、役人中相談

の上申すべき旨申渡す

6 伊勢國福守大夫領内にて大神奈を催すべく碇ヶ岡まで

来り、徒ヶ岡横目を通じ許可を求む、入回許可

7 高懸権兵衛不届の家来を斬罪にしたき由、許可

8 又昌院帰着 9 又昌院へ 10 又昌院着座、玄蕃

外記登城

四 辛未日 晴

1 江戸より鷹師昨夜下着 2 公方様忌中の機嫌伺い

として苦展より、おむめ殿他へ遣された連書披露の

由、公方様指進場として苦展より川鯉献上披露の

由、八右鷹師に託して申まる

4 堀越松山にて由めおく鴨御覽 5 又昌院へ

6 又昌院より使者 7 庄右江門へ使者 (料理進上)

8 左右江門右の御礼登城対顔 9 吉巻以下一門、大

即市以下重臣に、六日茶口切料理下さる旨仰出す

10 右の御礼として何れも登城 11 次郎市病氣断り

12 木村生之助祝言相済及にのき轉着を下さる

13 美沼島屋に由置く葺鷹御覽

五 壬申日 晴

1 庄兵衛昨夜書森より帰リ今朝登城

2 十三段にらせ島屋に由置く葺鷹御覽

3 吉内打島屋に由置く葺鷹御覽

4 六日のお茶口切料理につき庄兵衛御礼の登城

六 癸酉日 晴

1 中里村付たの米島屋に由置く葺鷹御覽

2 三番御鷹及び尾張様雅衆頭様へ進上の鷹を登す

3 井上玄斎罷足 4 庄右江門以下、主膳以下御茶口

切料理頂戴、後刻御礼のため何れも登城

5 玄蕃、次郎市病氣断り 6 又昌院の見積役 (三)

七 甲戌日 雨

1 式日寄合 2 斎藤又右江門に勝り深御蔵目付を申

付く 3 五兵衛持病再発につき湯治願、許可

4 又昌院より使者

八 乙亥日 晴

1. 甲府幸相逝去につき機嫌伺いの書状持参の御脚出程
2. 4. 知行・加恩金給与

5. 主膳組工藤又兵衛病氣による相違についての申渡し
6. 日記下屋敷願之繪図及び歩行屋敷場所の繪図を上る
7. 又書院へ
8. 外記登城へ十三日御出仲出さるにの
各御礼のため
9. 副田理右衛門足御座

九. 四子日 雨

1. 左門登城 2. 國上寺より御守札
3. 工藤太左衛門内へ匠々江戸登を命する故支度申渡す
十. 五日 初雪

1. 外記より初雪一天を雪上ぐ

2. 主膳組三左衛門内記、小倉宿左江内相配属の氏名(三)

4. 外記登城 5. 又書院より使者

6. 主膳付村崎島屋にて湯のたき鷹御座

7. 主膳市原長平渡登城 8. 庄右江門登城対顔

9. 又書院へ

十一. 六日 雪

1. 外記より、はたぐ雪上ぐ

2. 主膳口目長杉沢之派金十郎と申す者の家焼失の注進

3. 外記登城可 4. 高杉吉之助より、又渡寺持寄寺社目

の御礼、来る十五日仰付らるべき由申渡す

り書院工頭又大夫へ五人扶持下さる

り渡太夫組或田安右衛門に、御代官工藤庄右江門の御

役申渡り 7. 外記登城 8. 又書院より使者

9. 又渡寺より御守札
十二. 二日 雪

1. 式日寄合 2. 玄蕃岡本復登城 3. 吉つふしの
鳥登にて並めおく書院御覽 4. 庄右江門へ御手紙
5. 玄蕃外記左内次郎市へ未刻前より登城の命
6. 庄右江門お出、右の者登城
7. 初鐘の付連、庄右江門以下相伴

十三. 庚辰日 雨

1. 原田小左江門病死、停へ葬式許可 2. 名替願許可

3. 名替願許可 4. 明後日申正月寛海(信枚)五十耳

忌法事十部を仰付く 5. 外記、養久院へ白鳥、干

嚢を渡す 6. 御守の如く献上の風鈴を鑑す

7. 江戸より鷹師二羽、初種ニ書院献上の茶書無持参

8. 又書院へ、ついで外記宅へ 9. 養久院に封書

10. 右の御礼に外記登城

十四. 辛巳日 庵

1. 外記、左門登城 2. 江戸より御脚

十五. 壬午日 雨 夜雪

1. 小岡の御礼 2. 小倉宿左江門病後御礼

3. 高杉吉之助より、人形も長寄寺社目の御礼(三)

6. 無三様への使者として工藤太左江門登足

7. 又書院へ 8. 最勝院、杉沢寺、橋雲寺より御守札

9. 又書院へ京布を置才使者

10. 事庵へも使者

弘治前城本文圖

